

第5回若者まちづくりミーティング 概要

1 日時

平成28年9月17日（土）午後2時から午後4時30分まで

2 場所

蒲郡市役所 北棟集会室

3 出席者

(1) 若者まちづくりミーティング参加者（総人数15名の内10名出席）

（出席者内訳）

- ・高校生 2名
- ・大学生及び大学院生 7名
- ・社会人 1名

(2) ファシリテーター

名古屋大学大学院工学研究科 恒川 和久 准教授

4 内容

(1) 意見発表「公共施設で実現する将来の魅力ある蒲郡」

参加者全員に、これまでの議論を踏まえて、「公共施設についてこれだけは実現したいこと」というテーマで「事前検討シート」にまとめてきた内容を1人2分間程度で発表していただきました。

また、「実現するために、自分が何かできることがあるか」、「若者まちづくりミーティングに参加した感想」もあわせて発表していただきました。

「事前検討シート」及び発表の内容は以下のとおりです。

<参加者A>

- ・市民会館、博物館、図書館等の全市利用型施設は蒲郡駅周辺に集約させて欲しい。蒲郡駅は、公共交通のターミナルとなっており、人が集まりやすい。市民が利用しやすいだけでなく、市外からも利用者が集まるような魅力ある施設にできると良い。
- ・地区利用型施設は、機能を集約するとともに、地区内の空き家など既存の建物を活用した形で、充実させて欲しい。少子高齢化によって子どもが減り、高齢者が増加するが、互いに関わりを持つことで、負担を減らすことができるのではないか。例えば、空き家を用いたカルチャー教室等が考えられる。また、単に合併や縮小を進めるのではなく、地域の誇

りや思い出もあるので、住民としっかり話し合いを行うことが重要である。

- ・ 文化的素養が高められる公共施設を整備して欲しい。博物館、科学館、図書館、市民会館など現在の文化施設は、老朽化やコンテンツが新しくできないといった問題があり、若者などが愛着を持って利用できていない。地域に愛着を持ち、帰ってきたいと思えるよう、蒲郡の価値を認識できる場が必要である。例えば、アーティストが制作のために滞在し、市民も交流することで外からの視点を通して蒲郡の暮らしを見直すことができる施設（アーティスト・イン・レジデンス）や、世界の視点から蒲郡を相対的に表現したアートを展示する施設等が考えられる。文化的素養を高めることは、蒲郡をもっとよくしたいという人材を育成することにも繋がる。
- ・ 施設を有効活用する活動に対する補助金のような仕組みがあると良い。特に若者が積極的に活動することで、愛着を醸成するとともに、地域が若者を見守るような関係を築くことができる。

<参加者B>

- ・ 少子化だからこそ、子どもが集まれるように、小学校の多機能化を進めて欲しい。図書館や公園の機能を設けることで、居場所を設けるとともに、子ども達がコミュニケーションを取れるようにしたい。
- ・ 蒲郡の見どころである竹島周辺の整備を進めて欲しい。駅に案内板を整備することや、お土産を販売する場所を整備することで、観光でも蒲郡を活性化したい。
- ・ 蒲郡の自然や特産物を生かして欲しい。漁港や山の自然を活用し、地域の住民も巻き込んで、観光客の注目を集める取り組みができると良い。
- ・ 若者まちづくりミーティングに参加し、これまで知らなかったことを知ることができ、蒲郡のことを考えるきっかけになった。今の子ども達も、同じように考えてもらえると良い。

<参加者C>

- ・ 写真に残したい建物や風景、イベントを増やして欲しい。写真が趣味で、友人と竹島で写真を撮ったり、SNSに掲載したりしている。SNS上の写真を見て、その場所を訪れる人も多い。市が発信する情報だけでなく、口コミやSNSも「行ってみたい」と思うきっかけになっている。その中で、視覚情報は重要性が高い。老朽化した建物を建て替えるときや、カフェ等を新しく整備した際は、写真を撮影できるイベント等があ

- ると良い。花火大会や紫陽花など季節に応じた写真も発信できると良いのではないか。
- ・豊かな自然を子どもたちが実感できるよう、公園の中にあるような学校にして欲しい。「外で考えて遊ぶ」機会を設けられると良い。外部にPRすれば、移住を促すきっかけにもなるのではないか。
 - ・公民館、児童館、図書館分室などの地区利用型施設は集約するとともに開放を進め、多世代間の交流を生むことで、地域コミュニティを強化できると良い。高齢者施設に子どもが訪問するだけでなく、児童館に高齢者が訪問する形も考えられる。
 - ・各地区の拠点や駅等に、行政手続きや図書館の機能を持たせると良いのではないか。学生や高齢者等自動車を自由に使えない人に不便が無いようにしてほしい。
 - ・公共施設について市民ですら知らないことが多いため、情報掲示板のようなものを作って欲しい。各施設でのイベントに関する情報だけでなく、施設の課題などが分かりやすくまとまっていると良い。蒲郡市の広報を活用することも考えられる。

<参加者D>

- ・竹島周辺にランドマークとなる施設を整備して欲しい。個人的には、金沢 21 世紀美術館のような、美術館が適しているのではないかと考えている。その理由としては、蒲郡駅やバイパスに近くアクセスが良いこと、愛知トリエンナーレなどと連携し、宿泊者や交通機関の利用者等を増やすことができること、魅力的な施設であれば写真をSNSに投稿してもらうことで利用者を増やすことができること、子どもが芸術に触れる機会を設けることができること、地域にとってもアートスペースや休憩場所にすることができる事が挙げられる。
- ・ランドマーク施設の整備にあわせ、サイクリングコースやジョギングコースも整備すれば、運動の後に休憩し、施設も利用するという流れが作れるのではないか。
- ・学校の統合にあわせて、使わなくなった部屋を地域サロンにするなど、公民館のように活用して欲しい。商業施設やアートスペースにすることも考えられる。また、保育園と小学校を統合し、学校内に放課後児童クラブを設ければ、保育園に通う子どもと小学校に通う子どもがいても、親は同じ場所に送迎できる。
- ・若者まちづくりミーティングに参加し、自分よりも若い方のクリエイティブな話を聞くことができた。今後も、蒲郡市をより良くするためのア

アイデアを色々と考えながら暮らしたいと感じた。

<参加者E>

- ・市民会館に、図書館の機能を持たせて欲しい。市民会館は駅から近く、学生が利用しやすい。駐車場台数も多く、自動車を利用する際も困らない。市民会館の広いスペースを有効活用できるのではないか。
- ・生命の海科学館と博物館を複合化して欲しい。より深い知識を学べる施設となり、集客が見込めるのではないか。
- ・蒲郡駅に行政手続きの機能を持たせて欲しい。市役所に行かなくても、通勤や通学の際に立ち寄って行政手続き等を行うことができると便利である。
- ・南部市民センターに本が読めるカフェを整備して欲しい。現在南部市民センターにある書籍を有効活用することができる。また、竹島を訪れた人が本を読みながら休憩することで長時間滞在につながる。
- ・若者まちづくりミーティングに参加し、まずは公共施設がこんなにも多く存在しており、有難いことだと感じた。観光都市として、観光客も利用できるような施設を整備できると良いと感じた。

<参加者F>

- ・若者の公共施設に対する関心をもっと高めたい。体育センターについても、このままでは若者は他市の体育施設を使ってしまう。若者がもっと考え、利用者を増やせると良い。
- ・カフェなどを整備できれば、若者がもっと蒲郡市の施設を利用するのではないか。
- ・学校の多機能化を進めて欲しい。文化祭などは、地域の方々と協力しないと実現できない。学校を生徒だけのものとして捉えず、地域と交流しながら、学校をつくっていくと良いのではないか。
- ・若者まちづくりミーティングに参加し、これまでは公共施設の問題に向き合っていなかったが、蒲郡市や色々な方々が一生懸命に取り組んでおり、改めて重要な問題だと感じた。

<参加者G>

- ・高齢者の方は「話し相手が欲しい」とよく話している。保育園に高齢者が訪れる機会などが増えれば、高齢者が喜ぶとともに、子どもも良い経験ができるのではないか。

<参加者H>

- ・小学校や中学校の統合を進め、将来の負担を軽減して欲しい。単に統合するだけでなく、空き教室等を活用して、高齢者が昔の地域の姿を若い世代に伝えていけば、若い世代がどういう風に地域が変わったかを知り、今後どうしたら良いかを考えることに繋がるのではないか。
- ・市内の温泉などでは、県外ナンバーや市外ナンバーの車を見かける。温泉だけでなく、海や山、漁港などにも来ていただけるよう、案内板などを整備できると良いのではないか。
- ・駅周辺に関しても、周辺施設の案内や、休憩しながらその日の行動案を考えられるようなスペースがあると良い。
- ・若者まちづくりミーティングに参加し、これまでは空き教室の問題なども「何とかなる」、「仕方が無い」と思っていた。最近まで学校に通っていた若い世代が、もっとも現状を理解しているので、積極的に関わることが重要だと感じた。このような若者のミーティングを地区ごとに開催し、最後に全地区合同でのミーティングを開催するといった取り組みも良いのではないか。

<参加者I>

- ・図書館の移転・機能拡充を実現して欲しい。現在の場所では駅から遠く、利用されにくい状況となっている。移転するとともに、商業施設との複合化なども行くと、周辺の自治体からも利用されるような、魅力的な施設になるのではないか。
- ・同種の施設を複合化し、サービスの質を向上して欲しい。同様のサービスを行う施設が複数存在することは非効率ではないか。複合化により施設全体の量を減らすことで、限られたコストの中で、サービスを維持・向上することができるのではないか。
- ・観光施設（特に水族館）の周辺に、高齢者から若者まで、幅広い年代の人が、気軽に利用できるスペースを整備して欲しい。新たな付加価値を加えることで、市外へのアピールにも繋がるのではないか。

<参加者J>

- ・蒲郡駅に、蒲郡産のみかんや、果物や野菜のフレッシュジュース、ジェラート等が購入できる施設を整備して欲しい。駅で購入できれば、観光客だけでなく、地域住民も購入する。ナビテラスを活用することも考えられるが、観光客の流れとは逆方向になってしまうのが問題である。
- ・運動施設を整備して欲しい。ユトリーナなどの既存施設に運動スペース

を設けることも考えられる。将来の医療費負担を減らすことにも繋がる。東京や名古屋などの都市部では「FREE CYCLE (ライブハウスのように音楽が流れる中で、エクササイズを行うフィットネスジム)」や「JUMP ONE (トランポリンを利用したフィットネスジム)」といった施設が人気となっている。そのような新しいものも取り入れて、集客力を向上できると良いのではないか。

- ・生命の海科学館に、図書館やカフェを設けて欲しい。海を眺めながら本を読むなど、癒しの空間をつくることのできるのではないか。
- ・保育園と小学校、中学校、公民館を複合した新しい学校を整備して欲しい。西浦地区は、生徒数の減少などが問題になっており、このような取り組みを行う上でのモデル地区になるのではないか。「蒲郡の豊かな自然と触れ合える、あの学校に行ってみたい」と思われる学校ができると良い。
- ・蒲郡駅から生命の海科学館や市民会館に、雨の日でも濡れずに行けるような工夫ができると良い。雨の日でも利用者数を増やすことができる。
- ・西浦から大塚まで連続するウォーキングコースやランニングコース、休憩用のベンチ等を整備して欲しい。蒲郡のまちを見ながら、健康づくりを行うことができる。また、蒲郡の自然をより多くの人に体験してもらうことができる。
- ・若者まちづくりミーティングに参加し、「そのような意見もあるのか」と新しい発見があった。

<参加者K> (当日欠席されたが、事後に「事前検討シート」を提出いただいた。)

- ・生命の海科学館を図書館にリノベーションしてほしい。カフェ、イベントができるマルチスペース、子育て支援センター、寿楽荘の機能も取り入れた複合施設へ。

(理由)

- ー現在の図書館は、駅から距離があり古びている。
 - ー現在の科学館は、平日は閑散としているが一等地にありきれい。
 - ー図書館は、老若男女、曜日を問わず利用される。
 - ー勉強スペース、休憩スペースとして申し分ない。
 - ー「蒲郡駅南エリア」を活性化させる起爆剤になる。
 - ー市内どこに住んでいる人でもアクセスしやすく、食事もでき、1日滞在可能。
- ・今後、市の施設をつくる時は複合施設にしてほしい。

(理由)

- ー例えば「公民館」として建設すると、それ以外での利用が難しくなり、

結果、客足が遠のく。

－「体育センター＋子育て支援センター＋公民館」などの複合施設として建設すれば、既存のそれらを取り壊し、または売却でき、維持費を削減できる。

・民間の力を借り、慎重かつ大胆な公共施設の改革を行ってほしい。

(理由)

－ラグーナ蒲郡がH I Sによって再建されている。

－話題になり、注目される。

－蒲郡市の「中途半端」な改革は危険。

※以下は、名古屋大学大学院の学生（ファシリテーターアシスタント）からの意見

<アシスタントA>

・地区利用型施設について、地域ごとの特色が表れると良い。特に学校については、コンパクトに施設をまとめながら、地域の特色のある小学校にできると良いのではないか。

・小学校の空き教室は、物置のようになってしまい、生徒が中に入って怪我をすることもある。空き教室は活用することが必要。

<アシスタントB>

・他の地域に誇れる施設が欲しいという意見が多かったことが印象的だった。皆さん、竹島などを大切にしていることが感じられた。

・市民会館について、利用者が少なく、建物の規模が大きいことは逆にチャンスではないか。立地が悪い公共施設の機能を取り入れることができる。

・地区利用型施設については、小学校や公民館の統廃合は今後必要になってくるだろう。反対意見や寂しい気持ちもあると思うが、複合化することのメリットもある。前向きに考えていくことが必要だろう。

・公共施設は与えられているものと思っているが、自分から積極的に知りに行くような意識が必要だろう。まずは公共施設を自分から使っていこうとすると、公共施設が「自分のもの」になり、問題を解決しようとする動きが生まれるのではないか。

<アシスタントC>

・高齢者施設の整備が重要ではないか。保育園や公民館などとの複合化や、

- 空き家を活用して、高齢者の居場所を整備することが必要。
- ・ 保育園や公民館は若者も集まり多世代交流を行う場所、空き家を活用した施設は、高齢者だけの場所といった形でコミュニティを分けることも必要ではないか。
 - ・ 公共施設と民間施設の複合化を進める必要があるのではないか。図書館とカフェを複合した施設のように、多機能で多くのアクティビティが可能な施設があれば、蒲郡市を訪れる人も増える。
 - ・ 若者世代は公共施設を訪れる機会が減っている。若者まちづくりミーティングのように、将来を背負う世代が考えるきっかけがあることは重要だと感じた。

(2) まちづくりの方向性についての検討

「市民生活の充実」、「活力・にぎわいの向上」、「地域で助け合い、子どもを育てる拠点の形成」、「住民参画によるまちづくり」の4つのテーマを設け、テーマ毎にこれまでの議論を振り返りながら、まちづくりの方向性を検討しました。

Aグループは「市民生活の充実」と「地域で助け合い、子どもを育てる拠点の形成」、Bグループは「活力・にぎわいの向上」と「住民参画によるまちづくり」について検討し、集約した意見をグループのリーダーが発表しました。発表された意見は以下のとおりです。

①市民生活の充実

- ・ 図書館、市民会館、生命の海科学館、博物館、市役所等にある「学ぶ」、「趣味の活動をする」、「発表・展示をする、見る」、「会議や集会をする」、「図書やメディアにふれる」、「休憩」、「行政手続き」等の機能を蒲郡駅南エリア等の利便性の高い位置に集約し、幅広い活動ができる複合施設を設置することが最も重要である。
- ・ その際には、複合化を積極的に行い、サービスの質を向上する。例えば、市民会館と図書館の複合化や、生命の海科学館にカフェや癒しの空間を整備することで、市外の人にも訪れる施設を実現する。
- ・ 保健・福祉施設について、機能同士の連携により利便性を向上することが重要である。利用者のニーズを把握し、利用率を向上させることが必要。
- ・ また、市民会館、生命の海科学館、勤労福祉会館、生きがいセンター等にある「会議や集会をする」機能を再編し、利便性の高い位置に集約することも重要である。利用頻度が低い会議室などは、有効活用すること

- が必要。さらに各施設の隠れた魅力などを情報発信することも必要。
- ・あまり利用されていない博物館などの文化施設は規模を縮小することも必要ではないか。ソフト面を充実させ、文化的素養を育む機能は維持・向上させながら、ハード面は縮減することが必要である。
 - ・地区の特性を活かした公共施設をつくることは、市民生活を充実させる観点からは優先度は低いですが、公共施設を集約した結果、公共施設からの距離が遠くなってしまった地域においては、空き家を活用した施設等が必要になる。

②活力・にぎわいの向上

- ・「蒲郡のランドマーク」を設けることが最も重要。
- ・何がランドマークになり得るかを考えると、竹島水族館が中心となるのではないか。竹島水族館に美術館やカフェを併設することで、家族やカップル、高齢者が訪れる施設になる。
- ・また、竹島周辺エリアを蒲郡を代表する観光地として位置づけ、文化や歴史の発信拠点として集中的に整備を進めることが重要。その上で、夜の竹島が持つ魅力をもっと活用できないか。ゲストハウスなどを整備することで、長時間の滞在に繋がるのではないか。
- ・さらに、蒲郡駅からのまちづくりを実現することが重要である。駅から竹島周辺までの道や、竹島水族館から竹島までの道を整備し、市外からもアクセスしやすいようにする。駅付近で特産品を販売することや、情報発信を行うことも重要。

③地域で助け合い、子どもを育てる拠点の形成

- ・学校を中心とした地域の拠点をつくり、子育て、高齢者のレクリエーション、文化活動、集会、スポーツなど地域の方々の様々な活動の場とするとともに世代間交流の場とすることが最も重要である。このような拠点があることは、子育てのしやすさにもつながる。
- ・地域で高齢者を見守り、子どもを育てる環境をつくる上では、イベントや行事等を行っていくことが良いのではないか。
- ・バスの沿線上などの、利便性が高い空き家を積極的に活用し、高齢者の趣味の活動が行える場にして、コミュニティを形成する。
- ・児童クラブについては、地区の状況に応じて臨機応変に配置場所などを検討することが重要。保育園を小学校と複合化し、小学校内に児童クラブを配置することで、保育園に通う子どもと小学生に通う子どもが居ても、親は同じ場所に送迎に行くことができ、二重の送迎が不要になる。

そのようなメリットも含めて、地区で検討していくことが必要ではないか。

- ・小中学校の一貫化は、市全体で取り組むよりも、まずは西浦地区をモデル校にするなど、段階的に取り組むことが良いのではないか。また、一貫化とあわせて、学区の見直しも必要ではないか。
- ・学校を中心に、防災力を高めることが重要である。また、新しい居住者や観光客に対して、防災情報を発信することが必要。

④住民参画によるまちづくり

- ・自分のメリットを優先するだけではなく、蒲郡市全体のメリットを考えるような、意識づくりが最も重要ではないか。
- ・市役所の体制についても、いわゆる「縦割り」の組織ではなく、横断的な組織づくりが重要ではないか。
- ・まちの課題を市民と議論するためには、「課題が市民に伝わっているのか」、「市民が議論できるか」、「市民の意見が行政に反映されるのか」といった難しさがある。それぞれ整理した上で、解決する必要がある。
- ・市民も公共施設の課題を、自分から積極的に知ろうとすることが必要。
- ・この若者まちづくりミーティングのような場を、各地区で設けるなど、若者を含め、皆が参加しやすい環境をつくることが重要。インターネット上に議論の場を設けることも考えられる。

5 終わりに

ファシリテーターから、全5回の若者まちづくりミーティングにより、非常に貴重な意見が得られたことの講評がありました。また、若者を含め、市民が関心を持ち続けることが重要という指摘がありました。